



## 先生が見たネパール ～平成20年度 JICA教師海外研修報告～

雄大なヒマラヤの山々がそびえる国、ネパール。日本との時差は約3時間。北はチベット、南はインドに囲まれたこの国を、JICA教師海外研修一行が訪れました。空港から首都カトマンズの中心へ。人や車が街に溢れています。けたたましく鳴るクラクション。日本では感情を害しそうなものですが、交通事故を防ぐための合図なのだそうです。

この研修の目的は、ネパールを題材にした教材開発。ネパール滞在は8日間。青年海外協力隊及びシニアボランティアの活動視察や学校訪問、ホームステイ…。素材は十分です。

滞在中に訪れたナガルコット。カトマンズから北東に車で約2時間。山岳の町です。ここに暮らす人々の多くは自給農家。ネパールでは農業を営む人々が、約8割にも上るといいます。



バクタプールの寺院前で記念撮影

訪れた公立学校で出会ったソリムラさんは、11歳。家では水汲み、炊事に洗濯、家畜の世話に至るまで家事は何でもする。幼い弟妹の面倒を見るのも彼女の仕事です。時には、学校に連れてくることも。「とにかく学校が大好き!」と屈託ない笑顔。ここには友達がいる。そして、学べる。続けて、大切なものは家族と語ってくれました。将来は学校の先生として、地域の子どものために働きたいとも。その彼女は今、とても幸せであるといえます。

ネパールでは、日本と違うことばかりに目が行きがちです。しかし、その文化や習慣、そして人々の感情には共通するところも多くあるのです。自分のまわりでは見えづらくなっていることに、あらためて気づかされることもたくさんありました。

(JICA札幌 教員社会体験研修員 渋谷 将)



折り紙を通して交流する参加者。子どもたちも真剣です



## ボランティアの現場から～北海道出身協力隊員の活動レポート～

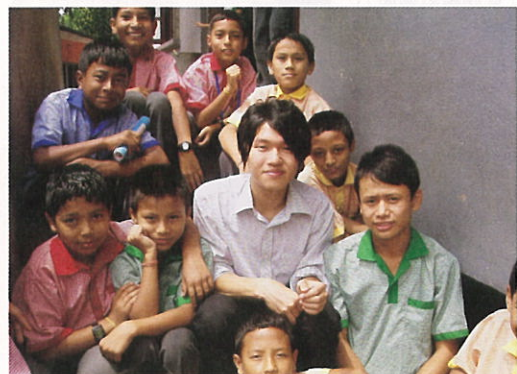
ナマステ!!平成20年度1次隊ネパール派遣青年海外協力隊、環境教育隊員の吉岡 幹人と申します。

ネパールと言えば、皆さんはどんな国を思い浮かべるでしょうか?

綺麗な山、歴史的な街並み、お寺など。しかし、いざネパールに降り立つとゴミ山が至る所にあり驚かされます。

現在、私は首都カトマンズから東に車で30～40分のところにあるバクタプールという街の小学校で、環境教育活動として学校内の清掃活動や環境アクティビティーの計画・実施などを行っています。

私の今の大きな目標は「学校内でのゴミのポイ捨てゼロ」です。



学校の子供たちと一緒に

ネパールでポイ捨てが減らない

のは清掃する人(一般的に低いカーストの人)の仕事を取ってしまうと考えている人が多く居るからだと聞きます。驚いたことに美化意識を教えるべき学校の先生の中でも、ポイ捨てを平気とする人がいます。

そんな状況の中、活動の一つとして思いついたのが環境ソングの制作・普及です。

ネパールの人達は歌や踊りがとにかく大好きです。そんな人達の前で環境美化の歌を歌えたなら、美化意識促進が出来るのではと思います。現在環境ソングのCD化や小学校などでのミニライブなどを計画中です。

ポイ捨てはこれから長い時間をかけないとなくならないでしょう。難しい任務ですが、残り1年半、普段の活動や音楽などを通して少しでも美化意識促進が出来たらと思っています。(20-1 ネパール環境教育 吉岡 幹人隊員)



環境ソングでの美化意識促進活動